

研究テーマ	<p style="text-align: center;">[V 造形教育の広がりを考える]</p> <p>生徒相互，保護者や地域の方々への感動の広がりを図る題材の工夫 ——中学3年生「生徒，保護者，地域の母校の閉校を彩る」の実践を通して——</p>
-------	---

大子町立大子中学校・黒沢中学校 教諭 藤井 美佳

1 研究テーマについて

私の平成24年度までの勤務校であった黒沢中学校は，平成25年3月をもって閉校した。生徒を含め，保護者や地域の方々にとって，自分たちの生まれ育った地域のシンボルであり，地域に密着した学校として存在していた。閉校にあたり，生徒たちの閉校への思いと保護者や地域の人の思いを美術で表現することで，テーマにせまりたいと考え，平成24年度の実践研究とした。

卒業生となる13名の生徒に，卒業制作として共同の作品づくりに取り組むことを提示しアンケート調査を行うと，自分たちの「卒業」だけでなく，母校の「閉校」という意識が強いことが分かった。題材のアイデアとしては，卒業・閉校DVDの制作・上映，グラウンドへの地上絵（1年生のときに学習した内容の発展的内容），インスタレーション等，さまざまなアイデアがあがった。話し合いの結果，体育館の窓へのスタンドグラスの制作に決定した。しかし，卒業だけがテーマだったこれまでとは違った意識で卒業制作に取り組む必要があると考え，デザインに保護者や地域の方の思いをくみとることとなった。全校生徒の保護者に対してアンケートを実施するとともに，生徒たちにはテーマから連想されるイラストやラフスケッチを描かせ，それらをもとにしたデザインでの制作を進めていった。

学校だけでなく地域の記念の行事となる閉校記念式典を彩り，作品のお披露目をすることを念頭においた。閉校記念式典には，生徒や教師，町の行政関係者だけでなく，多くの保護者や地域の方々の参加が見込まれたため，生徒たちには，構想・計画の過程で自分たちの思いとともに，地域の方として保護者の思いをくむことや，式典への参加者の思いを常に意識させる。卒業や閉校が1日1日近づいてくる緊張感の中で，自分たち，学校，地域や保護者へのメッセージを込めて制作していく。その共同制作で生徒たちが体感する思いや感動を，地域や保護者も共有し，思いがつながり，感動が広がっていくことをねらいとした。



2 実践例

(1) 題材名 卒業制作「式典を色と光で彩ろう」

(2) 題材の目標

○美術の創造活動の喜びや共同制作での協力の楽しさを味わい、主題をもとに、見る人の気持ちを考えて伝えたい内容を表現しようとしている。

(美術への関心・意欲・態度)

○テーマを見つめ考えたことをもとに主題を生み出し、伝えたい内容を多くの人に伝えるために、分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練っている。

(発想・構想の能力)

○材料や用具の特性を理解し、効果的に生かしながら、見通しをもって表現している。

(創造的な技能)

○造形的な美しさと目的や機能との調和のとれた美しさを感じとり、生活を豊かにする美術の働きについての理解や見方を深め、想像の意義を感じている。

(鑑賞の能力)

(3) 題材について

中学校学習指導要領解説美術編の第4章2「内容の取り扱いと指導上の配慮事項」に(4)「互いの個性を生かし合い協力して創造する喜びを味わわせるため、適切な機会を選び共同で行う創造活動を経験させること」とある。ひとりひとりが持ち味を生かして一つの課題や題材に取り組み、協力して創造する活動を位置付ける。では、適切な時期とはいつだろうか。音楽科の題材として、中学校教育の最後を飾る卒業式に卒業合唱が取り入れられる例は多い。美術科でも最終の題材として学級(学年)単位の共同の「卒業制作」の題材を取り入れたいと考えた。

共同制作は、一人では感じることのできない大きな達成感や感動を共有できる。一人ではおよそ達成できないような大きな作品づくりでも、みんなの力を合わせればできることを体感させるのに適した題材である。発想・構想・計画・制作に至る過程での話し合いをし、学級全体・小グループ・個別の活動の中で、互いのよさや個性を生かし、互いの得意・不得意を認め合って分担をして活動させることを重視する。自分たちの中学校美術科教育の締めくくりとして、そして母校の締めくくりを彩る題材として、閉校式典を華やかに彩る大規模な共同制作に取り組みさせることで、感動や思い出を、作品を通して心に深く刻む。

(4) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びや共同制作での協力の楽しさを味わい、テーマについての想像や感情などから生まれた主題をもとに、見る人の気持ちを考えて伝えたい内容を表現しようとしている。	テーマを深く見つめ感じとったことや考えたことをもとに主題を生み出し、伝えたい内容を多くの人に伝えるために、分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	材料や用具の特性を理解し、効果的に生かしながら、見通しをもって表現している。	造形的な美しさと目的や機能との調和のとれた美しさを感じとり、生活を豊かにする美術の働きについての理解や見方を深め、想像の意義を感じている。

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ②	テーマ・デザインについて考え、それらをもとに話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品やアンケート結果等を考慮しながら、主体的に主題を生み出そうとしている。関【観察・ワークシート】 見る人への分かりやすさや美しさなどを考えて主体的に構想を練っている。発【ワークシート】
第2次 ③	台紙（黒のラシャ紙）を窓のサイズに合わせて切り、デザインをラシャ紙に描き写す。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の特性などから、生かし方や制作の順序を主体的に考え、制作しようとしている。関【観察】 材料や用具の特性を生かして制作している。技【観察】
第3次 ④	描き写したデザインに合わせて台紙を切る。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の特性などから、生かし方や制作の順序を主体的に考え、制作しようとしている。関【観察】 材料や用具の特性を生かして制作している。技【観察】
第4次 ④	カラーセロファンを貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の特性などから、生かし方や制作の順序を主体的に考え、制作しようとしている。関【観察】 材料や用具の特性を生かして制作している。技【観察】
第5次 ①	体育館の窓に貼る。(本時) 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の特性などから、生かし方や制作の順序を主体的に考え、制作しようとしている。関【観察】 材料や用具の特性を生かして制作している。技【観察】
第6次 ①	鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> 共同作品のよさや色彩の美しさをに関心をもち、これまでの制作での互いの協力やがんばりを認め合い、感動を共有しようとしている。関【観察・ワークシート】 美しさと目的との調和のとれた美しさを感じとり、生活を豊かにする美術の働きについての理解を深め、想像の意義を感じている。関【観察・ワークシート】

(6) 本時の学習

◇目標

○材料や用具の特性などから、生かし方や制作の順序を主体的に考え、制作の見通しをもって協力して制作しようとしている。

◇準備・資料

制作してきたスタンドグラス(32枚)、ビニールテープ(透明)、ハサミ、全体図、脚立、机

◇展開

学習内容・活動	指導上の留意点 評価 発問
<p>1 本時の学習活動を把握する。</p> <div data-bbox="151 750 611 846" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>最終段階！ すべてを合わせて1つの作品に！</p></div> <ul style="list-style-type: none">・本時の学習の手順を確認する。 <p>2 体育館の床に順番に並べる。</p> <p>3 窓に貼る。</p> <p>○班構成</p> <ul style="list-style-type: none">・窓上段 3人×2 (脚立使用)・窓下段 2人×2 (学習机使用)・2階への作品の手渡し・バランス確認 2人・全体 1人 <p>4 片付けをする。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none">・本時の活動を振り返る。・感動の共有をする。	<ul style="list-style-type: none">・前時までに制作したスタンドグラスが1つの作品となり、本時がこれまでの活動の集大成となることを伝える。・本時の活動は危険な作業を伴うことや、協力しないと作業が進められない内容であることを伝え、活動への集中力や意欲を高めるようにする。・2階(バルコニー)の窓に貼る前に、全体図と通し番号をもとに、32枚を順番どおりにすべて並べ、完成したときのイメージをもたせるようにする。・スムーズに活動が進むように、生徒の個性や得手不得手、人間関係を考慮した班構成をし、個人・班ごと・全体がうまく協力しながら活動できるようにする。・上段は脚立を使用するので、上にのぼって貼る役割の生徒が足場にのぼっているあいだは、必ず1人が足場を押さえ、安全に作業ができるようにする。・残り時間等を定期的に全体に伝え、作業の見通しをもたせるようにする。・自分の班の作業が終わった生徒は、終わっていない班のサポートや片付けを始めるように声をかける。・光と色彩の美しさ、バラバラだったパーツがそろったことや共同作品のよさを意識させ、制作過程での互いの協力やがんばり認め合いながら鑑賞させる。 <div data-bbox="630 1877 1465 2011" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>技材料や用具の特性などから、生かし方や制作の順序を主体的に考え、制作の見通しをもって協力して制作している。(観察・ワークシート)</p></div>

※ テーマとの関連：ゴシック体

3 成果と課題

○成果

- どの制作過程においても、生徒たちの意欲が高かった。単純な作業内容だったが、生徒にとってはそれぞれの過程の中で適度に難しさがああり、また、完成までのプロセスの中で段階ごとの完成があることで、その都度達成感を味わえたことも意欲の継続につながった。特に2・3次の、下絵転写と切る作業では、係の仕事で来られない生徒以外の生徒全員が、ほぼ毎日のように昼休みになると自発的・積極的に美術室に来て活動していた。やることがもうないと伝えるとつまらなそうにしていたほどだった。
- 製作過程を5つの段階として、「今はこの段階」というのを明確に伝えるようにしたことで、完成までの見通しがもてた。ひとつひとつの過程の内容が独立し、なおかつ活動内容が明確で単純作業であるため、段階的な取り組みがしやすかった。
- 生徒たちは、カッターひとつとっても、道具の特性を考えながら効果的に扱うということに不慣れだった。各過程の中で、小さな失敗をしながら道具の扱いに慣れていく様子が見てとれた。制作の振り返りでも、当初「カッターがうまく使えず失敗してしまった」ということを書いていた生徒が、「きれいに切れるようになった！もうバッチリだ！」と、自身の成長と手応えを感じていた。
- 32枚のそれぞれのパーツを、最後に体育館の窓に貼り終わり、バルコニーから生徒たちが降りてくると、それぞれに歓声があがった。どの生徒もみな達成感と感動に満ちた表情で、口々に「やってよかったね」「すごいね」「きれい」「早く他の人にも見てもらいたい」などと言いつつ合っていた。共同制作を通して、13名全員の気持ちがこれまで以上にひとつになった。
- 学年通信の発行の担当をしていたこともあり、生徒たちの活動の様子や制作の進行状況等を掲載し、常日頃から保護者に伝えていた。完成したものは掲載せずに卒業式を迎えた保護者の方たちは、体育館に入るやいなや感動の声をあげ、写真におさめていたそうだ。「見ただけで涙が出たよ」「あんなにすごいものになっているとは思わなかった。すごい作品ができたね」「先生ありがとう」といった言葉をかけていただいた。また、閉校式を迎え、保護者の方や地域の方々からは、賞賛の声が多数聞かれた。

○課題

- ステンド「グラス」と銘打っているが、この規模で素材にガラスを使用すると、かなり高い金額になってしまう。今回は、予算や加工のしやすさの関係でカラーセロファンを使用している。カラーセロファンは需要が少ないため、生産中止となっている色があったり、生産量も以前より減少している。またこの題材を選択した場合は、予算等の条件をクリアしなければならない。
- カラーセロファンは劣化して1年ほどで色が飛んでしまうため、後々まで残るものとしては制作できない。しかし、その学校の美術科の共同制作として毎年取り組んでいけば、伝統的な題材となる可能性がある。

